



高村 光太郎 TAKAMURA, Kotaro

1883(明治 16)年 3 月 13 日 - 1956(昭和 31)年 4 月 2 日

1883 (明治 16) 年 3 月 13 日、木彫作家の父 高村光雲と母 わかの長男として、東京都台東区に生まれました。小学校に入学する頃、父親から小刀を与えられ、木彫制作を始めます。

1896 年、共立美術学館の予備科に中途入学します。翌年卒業後、東京美術学校予科に入学しました。1898 年は美術学校事件で一時学校を退きますが、まもなく復学し彫刻科に進学しました。在学中 1900 年には「ホト、ギス」に投稿したり、後に、与謝野鉄幹に惹かれて新詩社に入り、たかむらさ篁碎雨の名前で雑誌「明星」に初めて短歌が掲載されました。また、この年に上野公園第 5 号館で開かれた彫塑会第 1 回展に塑造《観月》を出品しました。1904 年雑誌「ステュディオ」に掲載されたロダンの彫刻《考える人》の写真を見て衝撃を受けました。

1906 年 2 月、アメリカへ自費留学をします。はじめはナショナル・アカデミー・オブ・デザインの夜学に通い、彫刻家 ボーグラムの助手を務めました。ニューヨークでは、柳敬助や荻原守衛と親交を結び、翌年ロンドンに渡ってからも、お互いロンドンとパリを行き来するたびに会っています。ロンドンでは、ブランギンの画塾に通ったり、陶芸家のバーナード・リーチとも知り合いました。

1909 年にイタリア旅行を経て帰国。1912 年に駒込にアトリエが完成し、同年、岸田劉生や萬鉄五郎らのヒュウザン会第 1 回展に 4 点の油彩画を出品します。1914 (大正 3) 年に長沼智恵子と結婚。その後、次第に彫刻に専念しはじめ、ロダンの影響を受けた作品を制作しました。翌年には『ロダンの心』を訳し出版しています。ロダンの死後は、1918 年の雑誌「白樺」ロダン追悼号付録に「ロダンの言葉」の訳を掲載しました。

荻原とともに近代日本彫刻界に影響を与えた重要な芸術家です。1956 (昭和 31) 年 4 月 2 日、肺結核により死去。